

平成 29 年度 第 2 回市川市健康都市推進協議会会議録

1. 開催日時： 平成 30 年 2 月 19 日（月） 14 時 00 分～15 時 30 分

2. 会 場： 市川市役所 仮本庁舎 4 階 第 4 委員会室

3. 出席者（敬称略・五十音順）

【座 長】 藤澤 由美子

【委 員】 青山 真二、石井 広志、石黒 裕子、岩澤 秀明、栗岡 喬、後関 典子
後藤 久子、清水 輝和、高橋 勲、滝沢 昌次、美細津 明久

【市川市】 田中保健部長、岩井保健医療課長、他担当職員 4 名

【傍聴者】 0 名

4. 次 第

開 会

1. 挨 拶

2. 議 事

（1）健康いちかわ 21（第 2 次）について

・健康いちかわ 21 庁内プロジェクト会議（報告）

（2）市川市健康都市推進講座について

（3）市川市健康都市推進委員会の活動について

3. 事務連絡

閉 会

5. 配布資料

資料 1： 健康いちかわ 21（第 2 次）庁内プロジェクト会議 報告書

資料 2： 健康いちかわ 21（第 2 次）連携シート

資料 3： 健康いちかわ 21（第 2 次）評価シート

資料 4： 第 2 回庁内プロジェクト会議グループワーク議事録

資料 5： 市川市健康都市推進講座の実績

【事務局】

平成 29 年度第 2 回健康都市推進協議会を開催します。

「市 川 市 薬 剤 師 会」 「寺澤 千恵子」 委員

「市川市保健推進協議会」 「大久保 とし子」 委員

から欠席のご連絡をいただいています。

1. 挨拶

【田中保健部長】

本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

また、日頃より、健康都市推進事業について、ご理解ご協力ありがとうございます。

今年度 2 回目の開催となりますが、前回に引き続き、昨年度より推進しております、「健康いちかわ 21」について、主に進捗管理をテーマに本日の協議会を進めてまいりたいと思います。

「健康いちかわ 21」で示された健康課題や課題解決のための事業については、多くの関係部署において推進しておりますことから、連携を図るために、現在、各所管の担当者が集まる「庁内プロジェクト会議」において、各事業の進捗状況について情報共有しながら、効果的に事業を推進するよう努めております。

本日は、「庁内プロジェクト会議」の報告を行いまして、委員の皆さんからご意見をいただき「健康いちかわ 21」の進捗管理を行ってまいりたいと考えています。

委員の皆さんよりいただいたご意見につきましては、次回の「庁内プロジェクト会議」にフィードバックいたしまして、今後の事業推進の参考にさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【岩井保健医療課長】

申し訳ございませんが、田中保健部長につきましては、ここで次の会議がありますので退席させていただきます。

座長は、藤澤委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。（異議なし）

2. 議事

【座長】

それでは、事務局から会議録の公開について説明をお願いします。

【岩井保健医療課長】

会議録は、実名入りで市のホームページに公開します。また、会議の開催状況を、ホームページや市の刊行物等で公開するため、写真を撮影させていただきたいと思います。

【座長】

会議録をホームページで公開すること、実名入りの会議録にすること、各種紹介用に写真を撮影することについて、承認を求めます。（一同承認）

(1) 健康いちかわ 21（第 2 次）について

【座長】

議事（1）「健康いちかわ 21（第 2 次）について」事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

・健康いちかわ 21 庁内プロジェクト会議（報告）

健康いちかわ 21（第 2 次）に係る事業は、保健・子供・スポーツ・福祉など、多くの課で実施しており、情報共有・連携を図りながら進めていくため、昨年度から、関係各課が集まる庁内プロジェクト会議を実施しております。

プロジェクト会議の構成メンバーは、保健部から、保健医療課・国民健康保険課・健康支援課・疾病予防課、福祉部から福祉政策課・介護福祉課・地域支えあい課、文化スポーツ部からスポーツ課、子ども政策部から子育て支援課、学校教育部から保健体育課です。

庁内プロジェクト会議では、本計画の基本目標である、「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を達成するために、共通の課題と共通の視点を位置づけました。

共通の課題を、健康寿命の延伸のキーポイントとなる生活習慣の改善、共通の視点を、健康無関心層へのアプローチとし、より効果的な健康づくりの取り組みを展開していきます。

また、担当者が共通の視点を持ち、共通の課題に取り組むことで関係部署との連携を深めていくこととしました。

（第 1 回会議報告）

今年度、第 1 回目は、平成 29 年 6 月 2 日に実施し、出席人数は 15 名でした。

議題（1）平成 28 年度健康いちかわ 21（第 2 次）推進報告では、健康いちかわ 21（第 2 次）推進にむけて、共通課題について健康無関心層への視点を持って各課で事業を取り組んでほしいと説明いたしました。

議題（2）事業連携の取り組みでは、初めに、関係課同士が連携をとりやすくするため、事務局が作成した事業連携シートの活用方法について説明いたしました。（資料 2）

事業連携シートの活用方法は、「他課の事業の周知ができるかできないか」「他課で自分が所属する課の事業の周知を希望するかしないか」を記入し、他課との連携を希望する場合、プロジェクトメンバーへ連絡し、調整をします。そして、その結果は、随時、連携シートに入力をしていきます。

次に、平成 28 年度に連携を行った事業の報告として、保健医療課の健康マイレージ事業と他課との連携実績の報告をいたしました。

最後に、健康いちかわ 21（第 2 次）を取り巻く事業を広く市民に周知していくため、広報いちかわ 9 月 2 日号への特集記事掲載の協力を呼びかけました。

（第 2 回会議報告）

第 2 回目は、平成 29 年 9 月 28 日に実施し、出席人数は 17 名でした。

議題（1）で、平成 29 年度第 1 回健康都市推進協議会 会議報告をさせていただきました。

議題（2）各課事業進捗状況の報告では、各課で実施している健康いちかわ 21（第 2 次）の推進に関連した 37 事業を評価するために事務局が作成した評価シートに、今年度の事業実施方法（P）と実施内容（D）について、各課で事前に記入し、記入した内容について報告させていただきました。

評価シートは本計画の課題に対して、具体的な取り組みを行っている事業を選出し、その事業担当課に「事業目的及び目標、事業概要、対象、その事業が生活習慣のどの分野にあてはまるか」を記入していただき、「①課題」と「②課題における健康無関心層」、そして事業の実施方法（P）まで、前年度の事業担当者に記入していただきました。

今年度はその事業を実施し、実施した内容（D）と効果（C）、改善方法（A）を考え、また次年度も同様に、PDCAを繰り返します。

議題（3）事業連携の報告として、広報いちかわ9月2日号への特集記事掲載後の各課事業の周知効果について、関係各課に報告してもらいました。

記事の掲載をした効果として、健康支援課の事業である『心の体温計』について、「勤務先の方に紹介したいという問い合わせがあった」、保健医療課の健康マイレージについて「登録者が増加した」と報告がありました。

その他、連携に関することとして、健康マイレージの利用者向けのメールマガジンの記事募集を行い、市民への事業周知の手段として紹介いたしました。また、各課の事業の周知を広めるため、地域支えあい課と保健医療課から、講座やイベントのチラシを配布いたしました。

（第3回会議報告）

第3回目は平成30年1月26日に実施し、出席人数は16名でした。

議題（1）各課事業評価の報告では、評価シートを活用し、各課に平成29年度事業実施の効果（C）と改善方法（A）を事前に記入していただき、報告してもらいました。（資料3）

議題（2）連携事業の報告では、今年度連携できた内容や、成果について報告いたしました。本日は、その一部を報告いたします。

主に事業のPRのためにチラシやポスターの配付依頼を各課が実施できていました。その結果、申込み数が増えたという講座もありました。

また、プロジェクト会議の中で各課の事業について情報共有をしたことで、エイズ予防の事業が国民健康保険課と保健医療課で行われていることがわかり、啓発品の購入などで協力をしました。

2課が連携したことで、国民健康保険加入者だけではなく、広く市民に周知することができたと思います。

また、健康無関心層へのアプローチとして、保健医療課では健康マイレージのチラシを生活支援課の郵送物に同封し、生活保護世帯6,000件へ周知しました。さらに、若い世代への周知として、市内の小中学校の家庭学級参加者へチラシ配布を行いました。その結果、マイレージ新規登録者が月平均30人から40人のところ、その月については約70人と増加しました。

その他に連携できた実績として、広報いちかわ9月2日の特集記事の掲載は、カラー見開き2ページの大きな記事であり、周知の効果があったと思います。

また、保健部では、市民まつりにおいて、例年は各課がバラバラに出店していたものを、保健部でまとまって出店することで、各課のイベント内容を情報共有し、お互いに市民を案内するなど協力することで、集客の効果があったと思います。

議題（3）データヘルス計画については、国民健康保険課の担当主幹と担当者の2名が出席し、データヘルス計画について説明をいたしました。

現在、国民健康保険課が第2期データヘルス計画策定中であり、この計画が、健康いちかわ21との連携・整合性を持って進めていくものであることから、策定にあたり各課から意見をいただき

ました。またデータヘルス計画を理解するとともに、データを各課で活用し、役立ててほしいという申し出があり、データヘルス計画の概要を情報共有しました。

議題（４）次年度方針説明では、国民健康保険課のデータヘルス計画のように、各課が所管している計画の説明や健康課題の解決のために活用できる情報やデータを提供してもらい、課題の解決に取り組んでいく予定であることを説明いたしました。

プロジェクト会議は、関係部署の連携・横串の構築を目指し、その手段として共有のデータの活用とグループワークを取り入れました。共有データの活用の目的は、評価シートや事業連携シートを活用することで、日常業務の中で他課の業務を意識づけていくことができると考え、取り入れました。また、グループワークは他課の事業と自分の課の事業との関連付けや行政の枠にとどまらず、民間企業や地域へ目を向け、自由にアイデアを出し合うことができると考え、取り入れました。

その成果として、自分の課の事業周知の拡大や他課の事業へ目を向けることで、似ている事業の整理ができました。また、事業を関係課が協力して実施することにより、対象が広がり、無関心層へアプローチすることができると考えます。例えば、子供を対象に実施している事業の中で、親を対象とした事業を合わせて実施するなどです。

将来的には、プロジェクト構成部署内の連携だけでなく、他の部署との連携へ広がるという効果を考えています。

（グループワークについて）

グループワークは平成 28 年度に 1 回、平成 29 年度に 2 回実施しました。

グループは庁内プロジェクトメンバーを 3 つに分け、事務局からテーマを提示し、討論を行っていただき、最後に発表していただきました。（資料 1）

平成 28 年度 3 月の会議で初めてグループワークを取り入れ、同じ事業があるという問題点の発見や各課で担当している推進員同士の連携を図ることで、行政側の横串と地域の中でも横串が広がるのではないかと意見、会議で知りえた他の課の事業と自分の課の事業と一緒にやれないかなどのコラボレーションの提案など、発展的な意見が出たことから平成 29 年度も継続して行いました。

このような現行の事業に留まらず、より広い視点を持って事業を考えることで、共通した健康課題の解決にも結び付くのではないかと考えます。

グループワークの内容について報告いたします。（資料 4）

健康いちかわ 21（第 2 次）の栄養食生活に関する市民の取り組むべき課題の中からテーマを一つ選び、各課の事業評価シートを参考に、①課題解決のためにどのような対象にどのような取り組みができるか、②現行の事業にこだわらず、市内のどこで、どのような取り組みをしたら課題の解決になるかを話し合いました。

話合いで出された意見について報告いたします。

A グループは、課題「男性は 30 代から、女性は 40 代から肥満の割合が増加する。」を選択しました。

①については、30 代から 40 代は、自ら行政主体の講座に行こうとしないし、広報も見ることが無いが、子供と一緒に図書館などの施設に行ったときにはチラシや広報誌などを見ることがあると

いう意見がありました。

このことから、「働き世代は、子育てに関する施設で情報をキャッチすることが多いと思うので、チラシ等を子育てに関する施設に置く。」「若い世代の方が来る場所に、こちらから出向いてチラシを配布して周知をする。」という意見が出ました。

②については、健康に関する情報が多く、混乱してしまうという意見があったことから、市として、何か一つをアピールするという意見が出ました。

その他、スポーツジムについているテレビを使って情報発信をする、居酒屋のお通しは必ず野菜を使ったものにする、スーパーで野菜量の目安を記載したレシピを作成して紹介するといった意見が出ました。

Bグループは、課題「意識して野菜を摂る人の割合が低い」を選択しました。

①については、「子供を対象にアプローチすることで、親世代へ働きかけることができる」「子供のころから生活習慣を変えていくことが必要」「子供が親世代になった時に、その子供たちへ親から意識づけができる」という意見が出たことから、無関心層に取り組むためには子供を対象にアプローチが必要という意見にまとまりました。

具体的には、「8・3のつく日には『野菜の日』と設定し、自然と野菜を食べさせられるよう、給食のメニューの野菜量を通常より多くする。」「子どもに『野菜を食べようキャンペーン』のポスターコンテストを実施し、ポスターを地域の飲食店やスーパーに掲示してもらう。コンテスト入賞者には景品として野菜が贈れるとよい。」「野菜が食べやすくなるよう、メニューの工夫をするため、『野菜レシピコンテスト』を実施し、そのレシピを紹介する。」などの意見が出ました。

②については、「企業を巻き込んでPRすることが有効ではないか。」「市内の全施設に『野菜を食べよう』のポスターを掲示し、どこへ行っても無意識に目に入るようにする。ポスターには旬の野菜の写真を定期的に入れ替え、そのポスターに掲示されている旬の野菜を割引して販売してもらう。」「高速道路上の看板や路面上表示としてポスターなどを掲示する」という意見がありました。

Cグループは、課題「男性20代から40代、女性20代の2から3割が欠食している。」を選択しました。

①については、子供の時に習慣化してしまい、大人になっても変わらない人が多いのではないかという意見があったことから、子供のころからのアプローチ・学校との連携が必要という意見が出ました。そこで、学校教育の場で調査を行い、朝食欠食の実態を把握し、状況に合わせた啓発をするという意見が出ました。

②については、「民間企業において、既に実施していることを参考にしよう」という意見があり、その例として、民間企業では、午前8時までに出社すると朝食代を無料にしたり、大学の学食で朝食を100円で提供しているということが挙げられました。

最後に、健康いちかわ21（第2次）を推進していくため、プロジェクト会議を実施したことについては、以下のような成果があったと考えております。

①事業の評価を、PDCAを使うことにより、共通の課題である生活習慣病予防についての取り組みが明確になり、健康無関心層へのアプローチの方法を意識して事業展開が継続していきける。

②会議を3回実施したことで、担当者が無関心層へのアプローチの方法を考えていく意識づけができ、協力・連携の促進が図れた。

今後はさらに、各課の連携に留まらず、地域や企業を巻き込んで、市全体で健康への取り組みが

できることを目指していきたいと思います。

【座長】

ありがとうございました。

ただいま、事務局より、健康いちかわ 21（第 2 次）のプロジェクト会議について報告がありましたが、今の説明について、ご質問のある委員の方はいらっしゃいますか。

【青山委員】

いろいろと問題提起をされ、健康について、各課の協議の中で、意見をいただいていることや、チラシやポスターで PR をする場があれば実行しているということも良くわかりました。

ただ、市川市が得意されている情報施策の切り口が見えていないと感じました。

情報施策は企画部が担当されていますがプロジェクトメンバーに入っていないのだなと思いました。

今や沢山の方がガラケー・スマホを持って歩いています。そして、これからはいろいろと記憶するものを外部に頼るだけでなく、AI で思考までも外部に頼ってくる時代になりますので、健康ということをテーマにするのであれば、今からでもプロジェクトメンバーの構成に、情報という切り口が必要なのではないかなと思います。

情報に頼るから動かなくなってしまう肥満になってしまうと思うので、PR については、特に 30 代 40 代の肥満層を活性化させるためにも、もう少し道具として情報を使ったらどうかと思います。

【事務局】

情報を使った PR に関しては、行政の中でも足りない部署があるかと思います。続けて検討していきたいと思います。

【座長】

10 課でプロジェクトチームを作っていて、毎回、出席している人数が違いますが、メンバーは決まっているのでしょうか。

【事務局】

保健医療課 4 人を含め、全部で 18 名のメンバーがいますが、業務のために会議に出席できない方もいます。

【岩澤委員】

初めてこの会議に出席したときに、「横串の連携」を今後やっていきたいと報告していた。

健康いちかわ 21（第 2 次）を進めるにあたって、事業連携シートや評価シートを庁内でいろんな課が連携してうまく調整できるようにしたのは大変有意義に感じました。

【事務局】

事業連携シートは課を超えて活用できるように、メンバーが同じフォルダを使用できるように設定しています。

連携シートの中で全ての事業が「連携を希望する」ということになったわけではないので、より

活用しやすいように検討したいと思っています。

【座長】

グループワークで話し合われた、これらの提案については実現する方向性はあるのでしょうか。

【事務局】

担当者が広い目を持つということが第一だと考えており、まずは「考える」「発想を持とう」ということでグループワークを行いました。ここを手がかりに、企業と連携したりできたらと思います。事務局からも働きかけていけたらと思います。

【石井委員】

グループワークの議事録（資料4）を見ると、第2回は食育がメインでグループワークをやったということですが、事業連携シートを見ると食育の事業は3課だけの連携となっていて、もっと連携できるのではないかと思います。

特に、食育に関して保健体育課やスポーツ課が関わっている子供から大人になっていくところの他に、福祉政策課、介護福祉課、地域支えあい課も高齢者に対する食育への取り組みが必要であり、非常に重要なと思います。

ここの部分で連携されていないというのが、もう少し連携ができる場所ではないかなと感じました。

現在、子供に対しては、学校関係で保健体育課の給食や、学校保健会に医師会・歯科医師会も参加するなど、食育を行っています。このような取り組みが行われているのを他の課の方々にも見えているのかな？と思いました。

現実に行っていることが見えているのかどうか、そのうえで、連携ができているのかどうか疑問に思いました。

【事務局】

事業連携シート上では見えてこない部分でも各課で連携ができていると思いますので、事業連携シートをよりよく改善したいです。

保健体育課の職員がメンバーに入っていて、担当者がわかる範囲でグループワークの中で事業の取り組みについて説明をしてもらっています。

また、子供への対策については検討ができていませんので、広い視野を持って進めていきたいと思います。

【滝沢委員】

プロジェクトチームについては大変素晴らしいものを作っていただいたと思います。

先日、社会福祉協議会を訪ねた時、貧困家庭の子供たちは学校があるときは給食で栄養をとっているが、家に帰ってからは夕食を家族ととっていない人がとても多いということを聞きました。

東京都に「子供食堂」を立ち上げ、これを広めようと一生懸命に活動し、10か所以上立ち上げ、貧困家庭の子供たちを救っている人がいます。子供食堂の料金は500円ほどだが、それでも支払えない子供には無料で提供しています。

市川市でも数か所、子供食堂をやっているところがあるが、資金難等でなかなか継続できない面

があります。こういった実態があることも会議の中で議題にあげていただければと思います。

【事務局】

会議に子育て支援課が参加できず、子供の現状という課題については話ができませんでした。

今後、子供の生活の現状は子育て支援課から報告があると思うので、またこの協議会で報告させていただきます。

【座長】

ありがとうございました。

次に議事（2）市川市健康都市推進講座について、事務局より説明をお願いいたします。

（2）市川市健康都市推進講座について（資料5）

【事務局】

市川市健康都市推進講座は和洋女子大学のご協力により、平成17年度から毎年開催し、今年度で13回目となりました。本日、座長をお願いしている藤澤先生には、毎年大変お世話になっています。

この講座は、健康都市の考え方を広く市民に普及するとともに、参加された方の健康づくりだけでなく、講座で学んだことを家族や身近な方に伝えていただき、「誰もが健康なまちづくり」を基本理念とする「健康いちかわ21（第2次）」を市民に周知することを目的に開催しています。

平成27年度までは全9回としていましたが、開催期間が長いと継続して参加される方が減ってくる傾向があり、平成28年度から内容をコンパクトにして全7回としています。

内容としましては、健康都市の考え方、健康いちかわ21（第2次）について、生活習慣病予防のための栄養、食事について、運動に関すること、ストレス・こころの健康、健康に暮らすための住環境に関することなどです。

受講者数は前年に比べ減少しましたが、5回以上講座に出席された修了者数は多くなっています。

次年度の講座内容について、毎年同じ内容にならないよう、また市民の皆様に興味をもってもらえるようにしていきたいと思っていますので、委員の皆様にも、講座の内容についてご意見いただければと思います。

【座長】

事務局からここ3年間の健康都市推進講座の内容について説明がありました。

各委員の皆様からは、活動の中で感じていらっしゃる健康に関する問題や地域の課題について等をお話いただくとともに、この健康都市推進講座の内容に反映できるようご意見をお願いいたします。

【岩澤委員】

生活習慣病の予防ということで、医師会として4月から栄養士の方を活用し、在宅の方に対して食事指導を行っていく予定となっています。健康寿命を延長していくため、病気になる前に何かするという点では食事に関することが大切だと改めて考えているところです。

【石井委員】

医師会・歯科医師会では、フレイルとその前段階であるサルコペニアが問題になっていて、歯科では、フレイルとサルコペニアの間にオーラルフレイルという部分があります。

食事ができることによって体力が維持できるので、口の中を整えていただいて、食事ができるということが健康長寿という点を考えると重要だと思います。そのあたりを市民に対して啓発を行っていきます。

【美細津委員】

健康づくりの一環として栄養の改善事業などを行っていて、県内の保健師や栄養士への指導や企業に対して受動喫煙対策などを行っているところです。例えば、市と一緒に事業をやるなどして、一般の方を相手にできればいいとは思っているのですが、今後そういったことができるようにも考えていかないといけないかと思っています。

【栗岡委員】

講座に参加することは大変意義のあるものだが、講座を知らない人も多く、また、時間的な問題から行けないという人もいます。市川テレビなどを活用し、PRをしたらいいと思います。また、会社を辞められた方に参加してもらえるようにアプローチできる方法があればと思います。

【石黒委員】

30代・40代は子育てが大変な時期で、講座の内容などに興味があっても、子供の学校の時間に合わせたり、小さい子がいたりして、講座に参加できません。もっと若いお母さんの立場に立って、「保育関係の方がいるので気軽に参加してください」などと呼びかけていただければありがたいと思います。

【後藤委員】

民生委員の仕事は、高齢者の方たちのお世話だけではなく、赤ちゃんから携わっています。

高齢者に対しては、健康を維持するために運動をしなければいけないということや、食生活も大切であるということをお話ししています。

また、朝ごはんを食べていない子供たちが多いので、高齢者にも子供にも食生活が必要だとお話をしていきたいと思っています。

【青山委員】

過去224名の受講者の中で108名の方が修了していますが、この方々は関心の強い方だと思います。この方々が今度は伝える側となるよう、この方々に対して、アドバンス講座を行い、伝えていく担い手となるための人づくりの場を設け、市民と行政とのつなぎ役として市民へ推進していけるようにすると思います。

TMO講座を10年行ってきましたが、この講座から伝えることに長けている人がたくさん卒業されています。また、修了者に対してアドバンス講座も行っており、伝える担い手として市で活躍しています。

健康都市推進講座の修了者も、そこで学んだ事を通じて健康を推進していく人たちだと思います

ので、彼らを通じて市民の方に推進していけばいいと思います。

伝えることは難しいが、伝えるという手段の訓練する場を作り、修了者を伝える担い手として活用すべきだと思います。

【後関委員】

養護教諭同士で子供たちの健康課題を考える研修会を行っていて、その中でよく課題として挙がるのが睡眠に関わることです。

最近の子供たちは、睡眠時間はとれているが、睡眠の質が悪いです。その背景としてあるのが、スマホの普及によりスマホを持っている子供が増え、寝る前にラインやSNSをしたり、オンラインゲームを寝る直前までやっていることなどから、睡眠の質を下げているのではないかと考えています。

地区によっては、アウトメディアといって、家族を含め、丸一日又はある一定の時間、メディアをシャットアウトして過ごしてみようという取り組みを行っている学校もあります。

子供だけでなく、ネット依存症という言葉もあることから、大人の方たちの健康にもメディアが関わってくるかと思いますので、講座の内容の中にそのようなことも入れていただければいいなと思います。

【清水委員】

体育協会では、心と体の健康が子供たちに対して大切であると考えています。

医療費の削減をしていくことが市にとって得策だと思いますので、医療費の削減に努められるような施策を取っていくのがいいと思います。

また、県の体育協会としては、「見るスポーツ・支えるスポーツ・実施するスポーツ」ということを方針としています。それに加え、今、平昌オリンピックで活躍している選手のインタビューを聞くと、精神的に安定しているなと感じています。精神面が安定しないと競技に集中できないが、精神が安定しているからメダルにたどり着くのではないかと感じています。そういった面から、心と体が一番だと思いますので、心と体の健康に関する内容が引き続きあればと思います。

【高橋委員】

講座の内容を見ると、健康都市いちかわの実現に向けてとあるが、市川市は健康都市に、既になっているかなと思います。また、誰もが健康になるために私たちにできることとありますが、ほとんどの方が健康ではないかと思っています。

私たちはいつも健常者の方とお付き合いをしているが、パラリンピックもあるので、障害者の方のところに軽スポーツをするため、自分たちから出向いて行きました。

スポーツセンターで障害者向けのスポーツを行っているが、ここには、自分で会場まで来ることができる元気な障害者の方が来ています。自分たちが障害者の施設に初めて出向いて行って、そういったことを初めて気が付きました。

また、PRはいつでもやり続けないと100%にはならないと思います。

心身ともに健康でなくなってしまった方には、医師会や民生委員の方など受け皿がしっかりとできているので、健常者の方をいつでも健康でいられるように維持していくように、今後もスポーツ推進委員としてできることをしていきたいと思います。また、健康に関して新しい課題が出てくる

かと思しますので、そういった課題がわかりましたら教えていただければと思います。

【滝沢委員】

自治会は防犯防災、そのあとに環境衛生に対して活動を行っています。健康はどなたも関心があることです。健康でないといろんな活動ができないということで、自治会も取り組んでいるところ

です。
講座と聞くと健康にかかわらず、なかなか参加してきてくれない。どのようにして皆さんに参加していただくかが問題だと思います。

また、講座に参加してくれる人は毎回同じような方になっていると思いますので、講座を開催するにあたり、できるだけ初めて参加できるような、どなたでも入りやすいような環境づくりを考えていただければと思います。タイトルをより一層魅力あるものにするなど、もっと入りやすい入り口を考えていただければと思います。

自治会連合会では住みやすい住環境というところに関心があります。市川市では24万戸数あるが12%が空き家になっているということが問題になっています。市川市でも空き家対策委員会が立ち上がり、指針が出来上がったが、なかなか難しいところでもありますので、住環境をより良くしていくということにも真剣に取り組んでいかなければと思います。

【座長】

各団体からご意見をいただきました。対象を誰にするか、講座をぜひ聞いてもらいたい無関心層の方々にどう啓発していくかということだと思いますが、これは難しい問題だと思います。

高齢者が元気で暮らせるよう、子育て世代が積極的に参加しやすいようにPRしてという意見もありました。逆に来てもらうのではなく、こちらから出向いて行うということで地域との関わりを広めていくということもあったと思います。

次に(3)市川市健康都市推進員活動について市川市健康都市推進員会会長の栗岡委員から説明をお願いいたします。

(3) 市川市健康都市推進員会の活動について

【栗岡委員】

今年度実施いたしました活動についてご報告させていただきます。

今年度は、健康都市を推進する個人や団体を支援する、「認定NPO法人健康都市活動支援機構」のヘルシーパートナーズ事業に賛同し、活動を進めて参りました。

このヘルシーパートナーズ事業とは、地域で活動するボランティア団体や民間団体とが連携して、地域の健康づくりを支援していこうという取り組みです。

ヘルシーパートナーズ事業の今年度のテーマが「食と健康」ということから、このテーマに沿った活動を企画実施いたしました。

昨年度末より話し合いをはじめ、市民の健康づくりに少しでも役立つよう、どんなことをやろうかと模索した結果、健康絵手紙コンテストの開催と、健康フェスタの開催の2つを決定し、無事に実施することができました。

具体的な内容については、事務局から報告をお願いいたします。

【事務局】

（健康手紙コンテスト）

健康絵手紙コンテストでは、テーマを健康食や運動、趣味、風景、環境、笑顔等、自分が「健康」と思えることとし、市民の皆さんに絵手紙を公募いたしました。

中学生までの「子どもの部」と高校生以上の「おとなの部」の２部門に分けて募集いたしました。

応募いただいた作品は全部で 234 作品、各部門 10 作品ずつを入賞とさせていただき、賞の名称も、作品の印象から推進員会で考え、「笑顔が素敵で賞」「頑張っているで賞」「仲良しで賞」などと付けました。

応募いただいた全ての作品は、この後に報告させていただきます「健康フェスタ」において展示した他、12 月の上旬に、生涯学習センター内にて展示いたしました。

また、応募者全員に記念品として、「健康絵手紙ノート」を作成し贈呈、入賞者には、入賞した作品を印刷した絵手紙を作成し、贈呈しました。

（健康フェスタ）

昨年 11 月 23 日（木・祝）に市川市文化会館のローズルームにて「健康フェスタ」を開催し、164 名の方に来場していただき、大盛況となりました。

本イベントでは、大麦に関するミニ講演会・タオル体操・体力測定・健康絵手紙ギャラリーを行いました。

大麦に関するミニ講演会は、推進員が研修を受け、大麦の良さを市民の皆さんにお伝えしたいという希望があったことから、企画し、株式会社はくばくの先生から大麦の機能性についてお話を頂きました。

また、市川市発祥の山崎製パンさんから、市川市のために協力がしたいという思いから、本イベントへご協賛いただき、大麦の良さを伝えるため、大麦を使ったパンを推進員会とコラボして開発し、イベントの来場者の皆さんに配布いたしました。山崎製パンとのコラボパンの開発には、推進員会と山崎製パンとが 3 回、協議を行い、推進員の意見を取り入れていただけたパンが出来上がりました。

タオル体操は、健康都市推進員が実技指導を行い、来場者全員で楽しく体を動かしました。自宅に帰ってもタオル体操を継続して行えるよう、リーフレットも作成し、配布いたしました。

体力測定は、握力測定、血圧測定など全 6 種を実施し、測定者として市川市スポーツ推進委員の皆様にご協力を頂きました。

また、イベント会場内には、協賛企業や市川市で活躍するボランティア団体の紹介ブースを設け、健康都市活動関係団体（和洋会・すえひろ会・まちのすみかの会）、市川市スポーツ推進委員連絡協議会、MOA 食育ネットワークハピネスクラブ千葉、山崎製パン・株式会社はくばく・認定 NPO 法人健康都市活動支援機構が各ブースで活動の紹介を行いました。

【楽岡委員】

初めて、健康都市推進員会が主催し、イベントを行いました。想像以上の来場者があり、嬉しく思う反面、課題もありました。

今回は本日もご出席していらっしゃいます、市川市スポーツ推進委員の方々に協力をいただきましたが、このヘルシーパートナーズ事業の目的である、他団体との横のつながりを深め健康づくり

を推進していくため、今後はより多くの団体と連携し、市民の健康増進に寄与できればと思います。

来年度も、推進員会ではイベントの開催を検討しているところです。皆様が所属する団体へご協力の依頼をすることがあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、私たち推進員会は健康都市推進講座を受け、修了した方が会員となっています。皆さん優秀な方で、活動に対してたくさんのアイデアを出していただいています。健康については色々な情報が流れているところなので、何をすればいいのかという問題もあります。

今後は自治会など、様々な団体と連携をとり、幅広く活動を続けていかなければいけないと思います。

そして、関心を持っていない方にいかにして関心を持ってもらうかということも大切だと思います。

ただ長生きするだけでなく、健康寿命を長くするという努力をしていくためのヒントを与えられるような活動をしてきたいと思います。

【座長】

皆さん非常に熱心に勉強をされていて、地域のリーダーとして活動を行っています。そういった活動がどんどん広がって、いろんな団体と連携していくということが理想の形だと思います。

事務局から説明のありました、健康都市推進員の活動について質問・ご意見のある方はお願いいたします。

それでは、ご質問も無いようですので、以上で議事は終了いたします。

【岩井保健医療課長】

藤澤先生におかれましては、座長をお務めいただきありがとうございました。

最後に、事務局より事務連絡をいたします。

【事務局】

貴重な意見をありがとうございました。

庁内プロジェクト会議にフィードバックし、健康いちかわ21の推進をさらに進めて参りたいと思います。

また健康都市推進講座や健康都市推進員の活動につきましても、今後より充実した内容、活動としていきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

【岩井保健医療課長】

以上をもちまして、本日の予定は終了しましたので、「平成29年度 第2回 市川市健康都市推進協議会」は、これをもちまして終了します。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございました。